

日銀の視点

日本銀行は年4回、支店長会議に合わせ、全国の支店等からの報告を集約して「地域経済報告」（通称さくらレポート）を作成し、公表しています。10月には、国内の人口減少が予想される中で期待が寄せられているインバウンド観光の動向をテーマに取り上げました。以下、その内容を簡単に紹介し、茨城県内の動きにも触れます。

ひと頃、訪日外国人客の旺盛な消費行動の象徴だった「爆買い」は、足元では沈静化しています。本年入り後の円高や中国の関税強化などが影響しているようです。もっとも、わが国全体として悲観的になる必要はない

日銀地域経済調査課長 森本 喜和

と思います。確かに訪日外国人客1人当たりの消費額は減っていますが、客数は円高の影響などで幾分ペースダウンしつつも、増え続けています。

観光庁の発表によれば、今年10月の訪日外国人客数は、10月末時点で既に2千万人の大台を突破しました。特に、いわゆるゴー

年）の高さとなっています。こうした客の中には、都心部のホテルの混雑や宿泊料の上昇を避けるため県内に宿泊した方もいるかもしれません。いずれにせよ、当県を訪れる外国人客が増えているのは事実であり、地域の良さを知ってもらう上で大きなチャンスが到来していると言

えます。当県は、非常に多様な観光資源に恵まれ、見せ方次第で多くの外国人客を引きつけることができるように思います。例えば、筑波研究学園都市での先端的科学技術の見学・体験がある一方で、ラムサール条約に登録されている関東唯一の汽水

湖、酒沼の豊かな自然を生かした田舎暮らし体験プログラムもありますし、日本遺産登録第1号の弘道館など歴史遺産もあります。あとは、こうした魅力を外国人客により興味深く伝えることが鍵になってくるのではないかと思います。先行きを展望すると、20年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。東京から近い当県にとっては絶好のチャンスであり、より多くの外国人客が訪れ、当県のファンになってくれるよう期待します。

訪日外国人の需要獲得

は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。東京から近い当県にとっては絶好のチャンスであり、より多くの外国人客が訪れ、当県のファンになってくれるよう期待します。

ルデンルート以外の地域を訪れる客は、リピーターの増加などを背景に、全国を上回る勢いで増えています。

こうした中、当県でも訪日外国人の宿泊者数は増加しています。水準的にはまだ高いとは言えないかもしれませんが、伸び率で見ると全国3位（2015

レポートの詳細は、日本銀行ホームページ（<http://www.boj.or.jp>）の調査・研究コーナーをご覧ください。

（第2土曜掲載）